

まだ誰も、その男の全てを知らない。



残響

薩摩藩英国留学生記念館 令和2年度 特別企画展

村橋久成展

HISANARI MURAHASHI

2021 1.23 SAT — 3.29 MON

「これは何か裏がある？」10代の頃に抱いた疑問を
人生を賭けて解き明かそうとする男の歴史でもある。



決して鳴り止むことのない、残響が聞こえる。



北海道大学附属図書館 所蔵

日本の青春時代を足早に駆け抜けた男の情熱がドキュメンタリー映像と企画展示で129年の時を経て蘇る。

村橋 久成 1842 - 1892

元治2年(1865年)。江戸時代の終わりに、国禁を破り日本を密出国し、英国へ渡った19人の若きサムライたち。産業・文化・経済、政治や軍事など当時の最先端の技術や情報を学んだ彼らは帰国後、様々な分野で日本の近代化に貢献した。サッポロビールの生みの親として知られる村橋久成もその一人である。薩摩藩主島津家の一門・加治木島津家の分家という由緒ある家柄に生まれた彼は、将来は家老職につき藩を背負って行く地位にあった。帰国後、戊辰戦争では鉄砲隊を率い軍監として従軍。開拓使に出仕した後は、札幌への麦酒醸造所建設を始め、製糸や缶詰、葡萄酒工場など、北海道を舞台にヨーロッパ式の近代産業の振興に奔走した。これほどの男が、突然辞職し、一切の消息を絶ち、11年後の秋、神戸で一人の行路病者として発見された。



一人の作家の愛と執念が村橋久成49年の人生を、令和の時代に蘇らせた。



「残響」田中和夫 著(昭和58年)

高校時代、札幌時計台内にあった図書館で、偶然手に取った「北海道史人名辞典」。取り出して頁をめくっているうちに、「村橋久成」のところで私の目が止まった。開拓使における彼の業績を紹介した後、終わりに書かれた「退官後は頗る失意の日を送り、帰国の途中病のため死んだ。」とあるのが気になった。今思えば、これが村橋久成を主人公とした小説「残響」のプロローグだった。



小説家・田中和夫／彫刻家・中村晋也 北海道と鹿児島で創作活動を続ける二人の作家の「残響」が響き合う。

没後129年、いまだ鳴り止まない残響に導かれるように。関係者の声を求めて、鹿児島、東京、北海道、村橋ゆかりの地を訪ね、ミステリアスな村橋久成49年の人生に迫ったドキュメンタリー映像。



サッポロビールがあるのは彼のおかげですね。



一つのことを一生懸命にやる、静かな人だったのではないのでしょうか？



故郷にこんな先輩がいた。誇らしく思っています。



一言で言えば清廉潔白！



信念を貫く男！ちょっと真面目すぎたかな



薩摩藩英国留学生記念館 SATSUMA STUDENTS MUSEUM



鹿児島県いちき串木野市羽島4930番地 TEL 0996-35-1865 <http://www.ssmuseum.jp>

【開館時間】10:00～17:00 【休館日】火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)

【観覧料】大人(高校生以上)300円 小人(小・中学生)200円 ※団体割引(20名以上)、障がい者手帳を保有するお客様は一律50円引き



協賛：サッポロビール株式会社

★会期中の毎週土・日に『サッポロ生ビール黒ラベル(350ml)』を先着5名様にプレゼント。